

## 廻船関係史料所在目録 (一)

吉 本 一 雄

先に瀬戸内海歴史民俗資料館徳山久夫氏は、瀬戸内沿岸地域を対象に、海事関係史料の所在確認調査を実施され、その成果を『瀬戸内の海事史料調査報告一集』三集』として報告された。この調査は継続されるようであるが、関係史料の所在が明示されたことは、瀬戸内海運の全容を究明するにあたり、基礎的な調査として意義あるものといえる。

特に山口県下の調査報告としては、第二集に山口県文

書館・岩国市徴古館・宇部市立図書館付設郷土資料館・豊北町歴史民俗資料館所蔵の関連文書が収載されている。このうち山口県文書館所蔵の史料をみると、毛利家文庫、県庁旧藩記録、諸家文書から佐川・吉崎家文書が取りあげてある。内容の紹介はあくとして、報告書掲載の史料のほかに、毛利家文庫では御勤事類に朝鮮信使一件史料が、また諸事小々控・日記・部寄類等に城米船の出入津報告や海難関係の記載がみられる。諸家文書にも

取りあげるべき史料があり、徳山氏調査報告の補遺としてこの目録を作成した。

なお、目録の作成にあたり、次の点に留意した。

- (1) 目録は山口県文書館所蔵文書のうち、諸家文書を対象とした。
- (2) 目録には、主に廻船経営・廻船改・廻米・破難船関係の文書記録を抽出し、商品流通関連の史料についても抽出の対象とした。
- (3) 目録は各家文書ごとに整理番号・表題を記し、随時解題を加えた。

平生町佐合島  
佐川家文書

佐合島は海上交通の要地上関・室積をひかえ、沿岸航路の通行路に位置する。産業は漁業を主とし、また地理的位置から、朝鮮信使や幕府公用船の通行に際して廻子役を課せられた。文書中には、破難船文書のほかに、漁業・廻子役関連の史料がまとめて保存されている。

一〇寛政五年諸仕出物控

文中、寛政九年分大島郡萩蔵納米の回漕付立。また文政三年十月の廻船改によって、佐合島に一三〇石積〱五〇石積船七艘の所属が記されている。

美米売仕切

室積山根屋から佐川に宛てた米買仕切。取扱量は小量であるが、九州米・北陸米の名がみられる。

吾佐郷島明細付立

宝暦四年に二五石積船三艘、一七〱一八石積船三艘が所属する。

十六日

繰綿を積み込み九州へ向う途中に難破した甚四郎船の口上書。船は八反帆三人乗組。

吾難船関係文書

(1) 舟乗人付立 延宝三年十二月二十八日

筑後国船の難破にともない、見分のために上関から出向いた船数の付立。

(6) 讚州伊吹島船頭甚四郎破舟荷舟請取物数 延享三年十月十八日

(7) 船持船頭船往來受状覚 寛延元年十月二十七日

佐合島船持船頭八名の連署状。国法順守の旨を次のように誓約する。

(2) 大坂岩田屋平兵衛船口上書 元文元年十二月  
土佐川口から松材を回漕中に漕難した平兵衛船の口上書。

(3) 予州八郎兵衛船廻子行方不明口上書 延享二年  
閏十二月九日

八郎兵衛船は伊予三津浜から三田尻へ茶を回漕の途中。

(4) 佐郷島惣右衛門船破船浦証文 延享三年八月晦日  
延岡領島野浦庄屋差出の浦証文。惣右衛門船は三枚帆二人乗組で、商売のため入港中に難破。

(5) 丸亀領伊吹島船頭甚四郎口上覚 延享三年十月

廻船関係史料所在目録(一) (吉本)

一 他国船ニある難儀の時分見捨る申間敷候  
一 他国の者はいは二あるも喧嘩口論仕出申間敷遣仕候

一 類船はうはい難儀の時分ニハ、何方成共参候あ、先様他国御公儀様御世話ニ不相成候様ニ供々心遣仕候

一 往來申請私共為売買他国に罷出候、他国に参候御国法ニそむき不申候、いつれニあるも貫積荷物買申間敷候、他国者に船貸申間敷候、他国に便船やり不申候、問屋請人先様往來相改無抛儀ニ候へ者便船遣シ申候

一 往來申請私共為売買他国に罷出候、他国に参候御国法ニそむき不申候、いつれニあるも貫積荷物買申間敷候、他国者に船貸申間敷候、他国に便船やり不申候、問屋請人先様往來相改無抛儀ニ候へ者便船遣シ申候

一 往來申請私共為売買他国に罷出候、他国に参候御国法ニそむき不申候、いつれニあるも貫積荷物買申間敷候、他国者に船貸申間敷候、他国に便船やり不申候、問屋請人先様往來相改無抛儀ニ候へ者便船遣シ申候

候、先様御公儀御世話共ニ相成候得ハ、一廉曲事ニ被仰付候

一地下困窮仕候故前々より私共船上仕候処ニ、酒ノ粕買申儀法度ニ御座候、左様成やくに立不申物買申候へ者脇より漏聞申時ハ、御往来御差留可被成候、困窮之地下ニ付冬春之間麦米大根塩類ハ地下に買入申様ニ御申付被成御心ニ奉存候

(8)竹崎浦船頭清五郎口上覚 寛延二年正月八日

豊前小倉の油屋依頼による米を回漕中に難破した長州竹崎浦清五郎船の口上書。同船は四反帆三人乗。

(9)大村そのき三吉船破損一卷諸道具付取帳 宝曆九年九月四日

(10)大村領彼杵本町沖船頭三吉口上書 宝曆九年九月六日

大村領彼杵本町仁七所有船の難破一件記録。同船は五反帆四人乗。国元から茶ノ花・茶・黒砂糖・

鯨油を回漕の途中であった。

(11)淡州江井浦直船頭伊三郎口上覚 明和八年十二月十五日

平戸で鮪を買い込み、積登りの途中に難破した伊三郎船の口上書。同船は四反帆四人乗。

(12)阿弥陀寺浦船頭六左衛門口上覚 安永四年十二月二十九日

(13)白杵下ノ江村居船頭幸左衛門口上覚 安永四年十二月

佐合島に漂着した船が、幸左衛門所有船との確認届。

(14)安芸倉橋島船頭甚之介口上覚 文化四年十月

甚之介船は塩を積み込み日向国細島で売却し、さらに松・杉板・茶・大豆を買い込み積登りの途中で漕難。

(15)於蒲井村難船有之濡米入札売好注文帳出控 文化十年閏十一月

(16)亀井大隅守大坂運送半紙積船難船一件 文政三

年三月 石見国石橋久右衛門船の難船記録。同船は阿武郡江崎浦から津和野藩の半紙を回漕の途中。

(17)筑後久留米関船碇受取覚 宝曆二年五月二十六日

(18)筑後有馬様御手船碇網覚

(19)加世平左衛門書状(筑後御手船碇網ニ付)

(20)土屋余兵衛書状(有馬手船事ニ付)

(21)阿川宮島浦直乗船頭惣兵衛浦手形口上覚 戊辰年四月二十九日

鹿兒島から馬皮・黒砂糖等を積登りの途次に漕難した宮島浦船の口上書。

(22)南京商船長崎送り達書 戊辰年五月五日

(23)筑前芦屋浦船頭彦兵衛口上覚 午年八月

彦兵衛船は四枚帆三人乗。芦屋浦音羽屋の依頼により種子・餅米等を回漕の途中。

(24)佐郷島船頭源介口上覚 寅年八月七日

牛窓沖合で盗人に出合ったとの届書。同船は三枚

帆三人乗で、豊後佐伯で塩鯖を買い込み、幡州高砂でこれを売却し塩一五〇俵を買い込むとある。

(25)都濃郡運送米預り状 巳年十月十三日

空村中諸締り五人組請状 宝曆三年八月

五人組請状のなかに、城米船の出入津届出に関する一項がある。

空航海関係文書

(1)浦触差送り覚 十月二十三日

(2)廻米積長左衛門船入津覚

先大津掛洲浦所屬船の入港出帆通知。同船は萩蔵納米の回漕に従事する。

(3)手形写 文化十年二月

佐合島善三郎船(三反帆)の往来手形。

(4)琉球使者帰国触浦添受取状 巳年正月二十四日

(5)のろし番かけ船出勤沙汰覚 六月十日

(7)中村重嶺口上(佐合島留右衛門発病ニ付) 文政五年正月十四日

(8)加世平左衛門書状(漕船差出ニ付沙汰) 六月

二日

- (9) 琉球使者帰国先触受取 酉年正月二十一日
- (10) 琉球使者帰国先触送り状 酉年正月二十一日
- (11) 往来手形破損通知覚 享保十四年九月二十日

臼杵船宿安左衛門から佐川に宛てた、佐合島半左衛門所有手形の破損証明。

- (12) 馬島右衛門手形写 文化十二年十一月
- 元右衛門所有船は三枚帆。

- (13) 琉球人渡海先触受取覚 申年五月二十九日

- (14) 琉球人渡海先触受取覚 申年八月十三日

- (15) 肥前島原小嶺甚右衛門下人船揚覚 子年十月二十七日

- (16) 船頭衆法度請状 宝曆九年七月

佐合島の船頭七名が畔頭宛に差し出した国法順守の旨の受状。

- (17) 青木城米船遅滞先触受取状 酉年十月二十三日

- (18) 橋船受取覚 辰年正月

漂着した室積正月屋の所有橋船の受取状

- (19) 狼煙番懸船差止沙汰覚 十一月十七日

- (20) 朝鮮人来朝御触受取状 享保四年四月六日

- (21) 青木支配所城米船出帆浦触 卯年六月十一日

- (22) 舁受取覚 明和七年五月八日

- (23) 狼煙番懸船差出覚 九月三日

- (24) 吉崎長助書状(御馬船通船ニ付) 十一月二十四日

- (25) 赤沼五郎兵衛書状(御鷹船通船ニ付) 三月二十一日

一日

- (26) 船往来手形改ニ付達書 六月二十三日

大坂入港の藩内廻船に対して、往来手形の差し出しを厳守の旨、通達したもの。

- (27) 公儀目付御下り先触送り状 子年九月八日

- (28) 歩一物配分詮儀願書 文政六年五月

上関町室津

吉田家文書

室津上関は赤間関とならぶ海上交通の要地。諸国廻船の寄港も多く、また商品取引も行われた。吉田家は室津

浦年寄役を所勤する。

完空船出帆より御米積帰着迄往返日帳 延享三年十月十日

月十日

播州魚崎市十郎船の寄港地出入津および滞船の日数付立。

翌松前江差浦廻船白浦にて難船難状控 天保九年六月二十一日

月二十一日

江差浦岸田七郎兵衛所有船の難船口上書。同船は二七反帆一五人乗組で、松前から鱒・ホッケ粕・鱒粕などを積登りの途中。

翌御城米難船一件ニ付諸所差引引番付帳 天保十五年

年

翌御城米難船一件諸入目仕法付立 天保十五年五月

吾脇坂中務大輔様御預り所笠岡本屋忠左衛門船沖船頭

佐兵衛難船ニ付諸難用付立帳 文政七年九月十六日

日

翌子八月廿二日難船ニ付諸入用算用帳

翌豊前中津濡米抜出津一件

廻船関係史料所在目録(一) (吉本)

翌大坂名田屋次介船難船掛り合ニ而於萩諸入目仕出帳 文化元年十二月

文化元年十二月

秋穂町

山内家文書

山内家は秋穂の庄屋、小郡宰判大庄屋を所勤する。宰判内には、秋穂のほかには大海・旦・阿知須・岐波・床波

浦をかかえ、廻船活動も活発であった。秋穂浦を介して、米・粟種などの物資流通もみられた。

一七七千早丸船頭万蔵相果ニ付届 亥年十二月二十八日

千早丸は小郡宰判の手船。

一三三米其外出津入津并種子其外陸地送り控 慶応三年九月より

九月より

秋穂浦出入津の米・榎実・粟種等の付立。

一四二秋穂浦平原平右衛門松前御用達荷物異船借請積登ノ

節秋穂浦繫船中異人揚陸願 辰年八月

平原備用の外国船が、塩積込みのため秋穂浦へ寄港するのに際して、船員の上陸を求めたもの。は

ね紙に「本書無抛用向申立候ハ、其節揚陸被差免候、尤処々徘徊等者堅く相断可申候事」とある。

二八綿実水揚手形案 辰年十二月

大島郡久賀浦鶴田宛に積み出しの秋穂産綿実水揚依頼状。

二九佐山村菜種子秋穂浦差送りニ付覚 巳年五月二十四日

菜種は秋穂浦平吉船に積み込み、黒瀉村油板場辰巳屋宛に送る。

二〇遠波村菜種子送り状 巳年九月十日

秋穂浦油板場米屋買入れの菜種送り状。

二〇豊前酒米水揚ニ付願書 未年十一月朔日

二一西ノ浦土佐屋善兵衛方売渡し米水揚手形 八月

二二菜種米出入津水揚手形

袋に「摩心三年卯ノ九月より御差替并出津水揚手形入」とある。

二三阿知須浦秋穂浦難船掛合ニ付沙汰書 文政四年十一月

歩一銀の取り扱いをめぐる両浦への判断書。

二四小郡御宰判諸廻船増減届 亥年三月

小郡宰判における廻船数の移動を調査した届書。一年間に買得した廻船一三艘、売却した廻船一一艘について、積石・乗組員数・船頭名を記す。

二五阿知須浦船頭松三郎船石州難船借銀年賦上納ニ付覚 書 文久三年六月

二六大坂運送米積船石数改ニ付届書 文久三年七月

岐波浦所属の大坂回米回漕船の見分届。

二七秋穂浦二百石以上廻船届 亥年七月

秋穂浦所属の廻船について、積石・乗組員数・船頭名を記す。調査の主旨について、奥書に「右例年申出候式百石以上之廻船御改御用ニ付、船数石数船頭名前旁委敷申出候様との御事奉得其旨候、当秋穂より大坂瀬戸内之廻船前書之通ニ相違無御座候」とある。なお、同年の船改による所属船は次のとおりである。  
六〇〇石積一一艘 五六〇石積一一艘

四八〇石積一一艘 四〇〇石積二二艘

三八〇石積二二艘 三七〇石積一一艘

三二〇石積三三艘 三一〇石積一一艘

二九〇石積一一艘

二四大海浦二百石以上廻船届 文久三年七月

同年の届によると、四五〇石積一一艘 三八〇石積一一艘 三六〇石積一一艘 三五〇石積一一艘

三三〇石積一一艘 三一〇石積二二艘 二九〇石積一一艘 二七〇石積一一艘 二五〇石積一一艘

二三〇石積三三艘 二二〇石積二二艘とある。

二五阿知須浦二百石以上廻船届 亥年七月

差出人である浦年寄・小都合庄屋の在勤年から、文久三年の廻船改。内訳は次のとおりである。

七〇〇石積一一艘 五〇〇石積二二艘

四八〇石積二二艘 四〇〇石積二二艘

三六〇石積二二艘 三五〇石積一一艘

三〇〇石積一一艘 二八〇石積一四艘

二五〇石積一一艘 二四〇石積一一艘

二二〇石積二二艘 二〇〇石積一四艘

二八岐波浦二百石積以上廻船届 文久三年七月

同年の所属船は、六五〇石積・三五〇石積・三〇〇石積の三艘。

二五床波浦二百石以上廻船届 亥年七月

同年の床波浦における二〇〇石積以上の所属船は皆無。

二五大海浦二百石以上廻船届 文久三年七月

一二四八番と同じ。

二五石州難船ノ節借銀上納延引願 亥年七月

二五阿知須浦船石州難船ノ節借銀ニ付敷書 亥年七月

一二四四番・一二五三番と関連の文書。萩蔵納米の回漕中に石州まで流され難破した、松三郎船・繁右衛門船の借銀返済延期願。

二五阿知須浦船頭伊三郎儀石州難船ノ節借銀ニ付敷書 亥年七月

二五且浦廻船御改ニ付届 亥年八月朔日

二五大島郡西方上ノ関船出帆ニ付届書 明治三年四月

二十四日

一三〇難破船員数届出難形 明治八年六月二十五日

一三〇秋穂浦幸福丸平戸ニテ難船ニ付浦証文 辰年閏四月

月

平戸領磯津浦で難破した幸福丸の浦証文。同船は

一七反帆六人乗組。島原で石炭と種子油を積み込む。

一三七床波浦諸廻船改ニ付届書 戊年九月五日

床波浦所属廻船の増減届。同年三月以降、増減は

みられない。

一三六丸尾崎湊繋船届 子年正月七日

丸尾崎入港の廻船二三艘について、船籍・積石・

船頭名および積荷についての届書。端裏に朱書で

「若殿様丸尾御止宿ノ節舟改相済分」とある。

一三九御城米船并長崎廻米船繋船届 亥年八月朔日

丸尾崎における城米船の入港停泊調査届。

一三四阿知須秋穂懸り合難船究沙汰覚 巳年十一月

一三三九番と関連の文書。

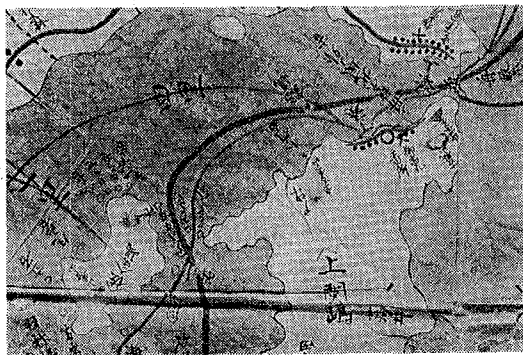
一三三山口御米津出上荷舟灘越運賃 巳年七月十四日

一三四船究ニ付現場浦年寄申合覚 七月六日

一三九諸廻船届書差送りニ付書状 八月二十四日

一三五阿知須浦廻船付立

阿知須・秋穂浦の船改付立。



佐合島付近海上図